

図書館だより

～ 今月のおすすめ本 ～

野菜パワーたっぷりのベジスイーツ

浜内千波



ヘルシー志向が高まり、野菜チップスなどお店でよく目にします。本書は、家庭で作れる野菜スイーツのレシピ集。ワカメのリーフパイには、舞鶴産のワカメを使ったり、ピーマンのケーキには、万願寺甘とうを使って自分流にアレンジしても楽しいかもしれません。(東)

煉瓦造

日本風景写真協会



日本風景写真協会会員による「遺したい日本の風景」シリーズの8巻目となる写真集。わが舞鶴の旧海軍舞鶴鎮守府倉庫施設をはじめ、全国の煉瓦造の建物が収録されています。そのノスタルジックな独特の魅力を味わってください。(西)

▶詳しくは、東図書館 ☎ 62・0190
西図書館 ☎ 75・5406) へ。



ドクターTのひとりごと その④「コミュニケーション能力の重要性」

コミュニケーションとは社会生活を営む人間の間で行われる知覚・感情・思考の伝達と辞書に記載されている。コミュニケーション能力は人間が生きていく上で極めて重要な姿勢である。友達が多い人、接客が上手な人などはコミュニケーション能力が高いように思いがちである。私はさまざまな課題を抱えて困窮している人に親身になって対応し、課題を解決できる人こそが真にコミュニケーション能力の高い人だと考えている。常に相手の身に置き換え、相手の「苦悩、怒り、悲しみ、喜び」を心底から分かち合うことが大切である。人間は自らの体験を相手の立場に置き換え行動するため、さまざまな人と出会い、多くの体験をすることが重要である。直接会って話し合うことが大切で、電子メールや電話など顔を一切会わさないようではコミュニケーション能力を高めることはできない。近年、利便性の向上でコミュニケーション能力が低下し、人との絆が弱まっている。私は以前から市役所の仕事には高い専門性とコミュニケーション能力が必要であると述べてきた。私も含め市職員はコミュニケーション能力を高め住民ニーズに応えることが重要である。

くらしの豆知識⑦

～ 健康食品の送りつけ商法 ～

突然、知らない業者から「以前、注文を受けた健康食品の準備ができたので、代引き配達で送付する」という電話がかかってきた。まったく注文した覚えがなく、「注文していない」と何度も言うが、「注文時の録音もある。裁判に出してもいい」と強引な口調で言われ、電話を切られてしまった。



上記のような手口は、全国的にも相談が増加している『送りつけ商法』と言われる手口です。

このような場合、もし商品が送られてきても必ず受取拒否をするようにしましょう。また、どこから送付されてきたのか、住所や名前、連絡先を念のためメモしておくようにしてください。

もし電話で支払うことを了承し、代金を支払った場合でもクーリング・オフができる場合もあります。その時は、まず近くの消費生活センターなどに相談をするようにしましょう。

▶詳しくは、市民相談課 ☎ 66・1006) へ。

まいづる花図鑑 84

【クサギ】 (クマツヅラ科) 見ごろ8～9月頃



各地の山野の開けたところに多い落葉低木。高さは2～3mくらいで上方で枝分かれする。葉は対生し8～15cmの広い卵形で長い葉柄がある。夏、先端が5裂した淡い桃白色の筒状花を枝先にたくさん付け甘い香りがする。果実は熟すると光沢のある青紫色となり、枯れずに残った赤い萼とともによく目立つ。

名前の由来は「臭木」で葉に触ると独特なおいがすることから。若芽は食べられる。

【協力】

瓜生勝朗 市文化財保護委員(植物分野)

「引き揚げ」の記憶を次世代へ

引揚記念館に展示・保管している海外からの引き揚げやシベリア抑留などに関する約1万2千点の資料の中から、今回は、民間人の引き揚げに関する「リュックサック」を紹介します。



リュックサック

終戦後、海外から日本へ引き揚げた民間人は約319万人といわれています。戦前に多くの日本人が新天地を求め、旧満州や中国、朝鮮半島、南洋諸島などへ渡りました。

しかし、日本の敗戦によって各国へ渡った人々は、その財産をすべて失い、必要最小限の荷物をリュックサックなどに詰めて、祖国へ帰らざるを得ませんでした。旧満州や中国からの引揚者は、居住地から貨車や徒歩で日本へ向かう船の出る港まで向かいました。その途中で、何度も襲撃や略奪にあい、荷物を奪われたといえます。その結果、船に乗るころには「靴までとられて裸足でした」「衣服まではぎ取られて丸裸同然でした」などと証言している引揚者もいます。

当館に展示しているリュックサックの1つは手作りで、引揚港に向かう途中、家族全員の衣類、薬品、

貴重品などをつめて、横にアルミの鍋をさげ、5歳の子どもを背負い、約10日もの間、山中を歩きました。

また、男性たちは女性や子どもを守るために、その周囲を取り囲んで歩き、野宿をしながら、北緯38度線を突破したそうです。

しかし、中身は全て強奪にあい、リュックサックだけが残り「唯一の財産」であったと寄贈者は証言されています。

ほとんど中身のないリュックサックを背負い、祖国の地を踏みしめた引揚者たちは、「ゼロ」からのスタートを切ったのです。

▶詳しくは、引揚記念館 ☎ 68・0836) へ。

広げよう人権の輪

～ 共に生きる社会を創る ～

Aさんは事故で下半身まひになり、車いすでの生活となつてから26年が経ちます。今では、日常生活のほとんどを自分でこなすことができるようになり、車いすでバスケットボールをしたり、自分で車を運転したり活動的な生活を送っています。

そんなAさんがショッピングセンターなどに行つて、身障者用の駐車場に停めようとする時、中央に「身障者専用」と書かれた三角コーンが置かれていることがあります。しかしAさんは1人で三角コーンを動かすことが困難なため、そういう場合は、結局あきらめて帰ることもよくあります。三角コーンは、「すぐに戻らるから」「他にスペースが空いていないから」「みんな、停めているから」といった軽い気持ちで駐車する人が後を絶たないため、置かれるようになったのでしょう。

なぜ、身障者用の駐車場が出入口の近くに広く作られているのか。また、そういう場所を本当に必要とする人がいるということを考えれば、そのような自分のことしか考えない身勝手な行為はできないと思います。Aさんは「普通の駐車場ではスペースが狭くて車いすの出し入れができないのです。本当に利用すべき

人が利用できないなんて悲しいことですよ」と話していました。

私たちのまちには、障害のある人やない人、国籍や年齢、性別など、さまざまな違いのある人たちが暮らし、その誰もが幸福な人生を送りたいと願っています。そのためには、多様な文化や習慣、価値観などお互いの違いを尊重し認め合うことにより、それぞれの個性が発揮され、共に生き生きと暮らすことのできる社会を実現することが必要ではないでしょうか。

8月は「人権強調月間」です。人権は誰もが持っている大切なもの。日常の思いやりの心によって守られるものです。私たちに何ができるかを、まずは身近なところから考えてみませんか。



《人権啓発推進室》